

* 俳句ブーム

- ・ 夏井いつきさん 「プレバト」「俳句甲子園」などのテレビ番組 “俳句の種まき”
- ・ 坪内稔典／ねんてんさん（「船団の会」）「口誦性」 ex. 三月の甘納豆のうふふふふ
- ・ 正岡子規、子規の弟子の高浜虚子と河東碧梧桐、
皆、愛媛県出身（夏井さんは南宇和郡、坪内さんは西宇和郡）
松山市には「子規記念博物館」（子規と夏目漱石が一時期同じ下宿にいた 再現）
（もっと古くは、江戸前期の松尾芭蕉、江戸中期の与謝蕪村など）
- ・ 今年二月に俳人の金子兜太さんが亡くなり、新聞の一面に記事。
- ・ c f. 桑原武夫「第二芸術論」で俳句の持つ前近代性を批判
一方、海外でもそれぞれの国の言葉で俳句のような短詩を作る人たちも
- ・ 正岡子規は「写生」写実を重視。高浜虚子が提唱したのは「花鳥諷詠」四季折々の変化に気づき、調子を整えて詠むというような意味だと思います。

* 「有季・定型」

- ・ 有季 季語を一つ入れる。二つ以上入れると「季重なり」。「歳時記 季寄せ」を読む
- ・ 定型 上五、中七、下五（拗音は1音と数えない 促音・長音は1音とする）
- c f. 「無季・非定型」 季語を入れず、17音にも縛られない。有季・定型への反発
- ・ 尾崎放哉、種田山頭火 自由律俳句

- * 「切れ」のために「や、かな、けり」などの「切れ字」を使うことが多い。音数が限られる俳句では、短くするためにも「文語」を使う場合が多い。（歴史的仮名遣いも）

* 「取り合わせ」（二つの題材）と「一物仕立て」（一つの題材）

- * 「句会」では、各自5句作り、短冊に書いて持ち寄り、中から各自5枚取り出して清記誰が作った句か分からないようにした清記の紙を回し、いい句だと思う俳句を5句選ぶ。俳句では、下の名前で呼び合うことが多い。 ex. 芭蕉 子規 虚子 ねんてん
「吟行」は、野山や名所を訪ねて俳句を作ること。

* では、実際に俳句を作ってみましょう。

- 「有季・定型」の制約を楽しんで「字余り」「字足らず」がないようにして下さい
- 「席題」は設けず、「当季雑詠」で、秋に関する句を作ってください。（兼ねてから題を決める場合は「兼題」と言います）
- ・ 省略、感性を大事にし、説明的にならないようにして下さい。